

# 温故知新

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2005.7 Vol.4

平成17年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター  
〒430-8533 浜松市野口町1794-1  
TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125  
<http://www.suac.ac.jp/lib/index.html>



## Contents

### ■表紙

#### 鳥獣戯画卷 ————— ①

### ■巻頭言

#### 言葉の重さ ————— ②

静岡文化芸術大学 文化政策学部  
国際文化学科 学科長  
山本 幸司

### ■図書館散歩

#### 私の出会った本 ————— ③

静岡文化芸術大学 デザイン学部  
生産造形学科 学科長  
河原林 桂一郎

### ■〈シリーズ〉

図書館・情報センターを使いこなそう!

#### GeNii (ジーニイ:学術コンテンツポータル) からCiNii (サイニイ) 編 ————— ④

#### ■知っていますか?こんなサービス ————— ⑥

## 鳥獣戯画卷:国宝

(原寸 卷子本 完全原色2巻)の複製 箱入

講談社1968 (721.2/To 13)

京都市高山寺に伝わる四巻一組の白描絵巻。「鳥獣人物戯画」ともいわれる。国宝。

筆者は戯画をよくした鳥羽僧正と伝称されるが確証はなく、四巻のうち甲巻と乙巻は平安時代、丙巻と丁巻は鎌倉時代に制作され、制作時期と筆をそれぞれ異にしている。

甲巻は兎や猿、蛙などの小動物を主人公とし、乙巻では馬、牛など身近に見る動物に加え、麒麟、竜など空想の動物も描く。墨一色の描線は、濃淡、強弱自在な筆さばきを見せ、描かれた動物たちは生き生きとして表情に富む。また、丁巻は速描きの人物戯画卷であり、漫画の祖ともいわれる。

この絵巻には詞書がないため、各巻の内容の解釈、制作の動機をはじめ未解決の問題が多いが、文字が読めない児童や、無学な庶民や下僧、僧につかえる雑役者等に、法会や仏事などを中心とした年中行事や雑芸を教える教育と娯楽の両面を備えた絵本や教材と見ることができよう。昔話や御伽話の形式を借りて、仏事法話を主要なモチーフとして構成され、全体に流れる温かいまなざしが滑稽味、可笑味、笑いを誘う。現在、日本が世界に誇るアニメーションの先駆としても、ゆるりと紐解いてみたいものである。

掲載の絵は「鳥獣戯画」甲巻の冒頭部分で、自然の中でのびのびと水に遊び、相撲、賭弓といった遊戯に興ずる動物のさまを描いている。

「世界大百科事典」平凡社1988、五来重「鳥獣戯画卷と民俗」角川書店1976 (新修日本絵巻物全集4) 参照



静岡文化芸術大学 文化政策学部  
国際文化学科 学科長

山本 幸司

Yamamoto Koji

### 文中に登場した図書

アンドリッチ 著

**ドリナの橋**

989.2/A48,

989.08/G34/12

ドンチェフ 著

**別れの時**

989.13/D85

カダレ 著

**誰がドルンチナを  
連れ戻したか**

993.4/Ka13

カダレ 著

**砕かれた四月**

993.43/Ka13

Prosper Mérimée 著

**colomba (洋書)**

083.5/F31/ME65-2

メリメ 著

**コロンバ**

(「メリメ全集2」に収録)

958.68/Me65/2

## 言葉の重さ

20年近くも前だが、東欧圏の小説を読み漁った時期があった。I・アンドリッチの『ドリナの橋』やA・ドンチェフの『別れの時』などを讀んだときの、何かが心の底に沈澱していくような重圧感を、今でもかすかに思い出す。民族同士の果てしない抗争やイスラム教徒とキリスト教徒との相容れない対立など、歴史や伝統に取材したテーマから現代社会主義の持つ問題性まで、どれも総じて重くかつ暗い印象は共通している。もともと東欧史には素養がなかったので、この地域の歴史については歴史概説より小説を通じて学んだことの方が多かった。サライェヴォの悲劇やボスニア・ヘルツェゴヴィナ内戦について考える際、私の基本的な思考は、これらの読書経験から発しているようだ。

しかし東欧小説の中で、90年代になって日本に紹介されたアルバニアの作家I・カダレの作品には、また別種の感想を持った。最初に日本語に翻訳された『誰がドルンチナを連れ戻したか』は、アルバニアの慣習を基にした作品である。その主題は言ってみれば、人間が発した言葉の重さにある。

——遠方へ嫁に行ったヴラナイ家の娘ドルンチナは、長引く戦乱のため故郷に帰ることができない。嫁にやる際、母親が会いたければいつでも自分が連れ戻してやると請け合った息子コンスタンチンは、戦で死んで墓の中である。一目娘の顔を見たい母親は、コンスタンチンの墓に赴いて、「お前はドルンチナを連れ戻すと約束したではないか」と死者を責める。するとコンスタンチンは墓から復活して、妹を連れて戻るのである。——

神聖なる誓約（ベーサ）の言葉は、死者をすら甦らせるというのだ。この小説には、東欧の小国アルバニアがソ連圏で直面していた政治的問題や、それ以前からの宗教的対立などが寓意の形で秘められているという解釈は、それはそれで正しいのだろう。ただ私にとって興味深かったのは、アルバニアの風土に根ざしたような慣習の力だった。ここに示されている、ひとたび口を発した言葉は取り消すことができない、ひとたび交わした約束は神聖にして破ることはできないという考え方は、別にアルバニア特有のものではない。世界の到る処に存在するし、昔話などにも表現されている。その意味では人間社会に普遍的に備わる感覚なのだが、これほど強烈な形で主張されている例は少ない。

私の専門である日本中世の法史学では、成文化されていない法慣行を扱うことも多いし、成文法も法慣行について知らなければ意味の分からない法文が多いから、民俗学と重なるような慣習に関する知識は欠かせない。この点からもカダレの作品は発見に満ちたものであった。また以前に外国の慣習法について多少調べたときに讀んだ、M.Hasluck "The Unwritten Law in Albania" の記憶も、カダレの作品とつながるものだった。

民俗的法慣行と関わるカダレのテーマは、ベーサだけではない。〈血の復讐〉もそうである。血の復讐は、仇討を念頭に浮かべれば日本人にも特に珍しいことではない。しかし家と家とが代々対立しあい、血で血を洗うような抗争を繰り返したという話は、日本では聞かないが、南欧や東欧では広く知られている。カダレの『砕かれた四月』は、アルバニアの血讐を主題とする作品である。血讐を扱った小説で有名なのは、コルシカを舞台としたP・メリメの『コロンバ』であろう。しかし『コロンバ』が文学的作為のために、慣習の強制力を訴える点では弱くなったと感じられるのに対し、『砕かれた四月』は哀切さを湛えた叙情性の一方で、慣習の持つ理不尽なまでの束縛の強さをメリメ以上に身に迫って訴えている。

歴史学は個別的・一回的な事柄を扱うと言われるし、特定の事件を対象とすれば確かにそうである。そこでは歴史的に形成された国家・民族に固有な動因が考察されざるを得ない。だが他方で、個別的な事件の原因や動機を探って、人間の思考や感情の世界に足を踏み入れたとき、言葉の重さや血讐のように時代と地域を越えて共通する要素も存在する。

そうした要素を理解するには、文学の持つ洞察力の助けも必要となる。歴史学と文学は学問としては別個の分野に属しているが、私にとっては二つにして一つであり、文学の世界から得た多くのものが歴史解釈の根底を形作っているようにも感じるのである。



静岡文化芸術大学 デザイン学部  
生産造形学科 学科長

河原林 桂一郎

Kawarabayashi Keiichi

### 文中に登場した図書

パール・バック 著

大地

「世界名作全集」(908/Se229/)に収録  
908/Se229/30-31

小田島雄志 訳

ジュリアス・シーザー

938.5/Sh12-5/3

小田島雄志 訳

シェイクスピア全集

938.5/Sh12-5/1-5

※訳本ほか多数あり

William Shakespeare 著

The works of Shakespeare

Cambridge刊

938.5/Sh12/1-39

※原著ほか多数あり

Henry Dreyfuss 著

Designing for people (洋書)

501.8/D91

C・アレグザンダー 著／押野見邦英 訳

都市はツリーではない

518.8/Ma26\*

C・アレグザンダー 著／宮本雅明 訳

オレゴン大学の実験

526.37/A41

C・アレグザンダー 他 著／中埜博 訳

パタンランゲージによる  
住宅の建築

527/A41

## 私の出会った本

人にとって鮮明な記憶は、少年・少女時代の追憶だといわれるが、この思春期に読んだ本で今でも忘れられない本は多い。当時発刊されていた本に、平凡社の世界名作全集という珍しい赤紫色の厚手のクロス貼り製本A6判サイズ、題字金箔押しの文学全集全50巻(後に20巻追加)があった。小説だけでなく詩歌集編もあった。このとき読んだいわゆる名作といわれる小説の中では、パール・バック(大久保康雄訳平凡社1959)の「大地」(上・下)が印象深い。かつて中国を最初に訪問した時になぜかとても懐かしい光景を思い起こし、何十年も前に読んだ小説が思い出された記憶がある。少年時代に読んだときと同じような土のにおいのする生活や風景を目にしたような不思議な体験であった。中学校の英語の時間が一風変わっていた。ミッション系の中学・高校であったこともあるが、当時の英語の時間に先生が教えたのはいきなりシェイクスピアの英文原書講読であった。勿論、英文法や会話の授業も別の先生より教わったが、英語を習い始めたところで原書講読の経験は強烈であった。

「ジュリアス・シーザー」にでてくる反語的表現などは今でも頭の中を過る。お陰で中学・高校を通じてシェイクスピアの戯曲はかなり読むことができ、英語の独特の言い回しに酔った時期でもあった。シェイクスピアの作品にはいつの時代においても不変な人間の心理、心のひだが巧みに表現されており、原書で読む楽しみを教わったこの時期を今でも懐かしく思う。

デザインの世界に興味を持つきっかけとなった本が、ヘンリー・ドレフュスの「百万人のデザイン Designing for People」(勝見勝訳、ダヴィッド社1959)であった。ドレフュスは、日本のたばこ「ピース」の外装デザインで有名なレイモンド・ローイなどと同時期の1930年代頃から活躍を始めたデザイナーである。1930年代当時は、差別化のためのデザインが経営者のデザイン概念であった。

ドレフュスは、かたちを操作して売り上げを伸ばすという考え方に抵抗し、わかりやすく、つかいやすく、コストを考えたデザインをすること、つまり、製品と人間との関係について熱く語りかけており、外観は最後に整えるべきものであるとした。1950年代のアメリカが製品の陳腐化の促進手段としてデザインを利用しようとした風潮であったのと同様に日本も高度成長期の1960年代以降デザインが大量消費された。コスミックデザインに対する彼の見識に大いに賛同したものである。時代変わって、現在、Human Centered Design とか User Experience Design といわれているが、そのルーツともいえる彼の見識であった。

デザインにおけるこうした人間中心志向は、今日では定着したように思われるが、米国留学時代に教わったクリストファー・アレグザンダー教授の「都市はツリーではない」(1969)「オレゴン大学の実験」(1975)「パタンランゲージによる住宅の建設」(1987)の中で既にこの志向が感じられた。彼の考え方は、有機的街づくりのための住民参加の方法論として有効であり、工業デザインにおける Human Centered Design、User Experience Design と相通じるものを感じる。バリアフリーデザインやユニバーサルデザインが障害を取り除いたり、全ての人が利用できるためのデザインとして定着しつつある現在、こうした考え方をメタボリズム隆盛の高度成長期1960年代に提言した彼の時代に対する洞察力に改めて感心せざるを得ない。

これまで出会った本の多くが、何れも人間を中心とした視点で生活や社会との関わりを豊かにしてくれているという共通点を感じる。デザインは美しくなくてはいけなくて、生活の中で人が心豊かになるものとした。人と豊かさについて多くの本に出会うことができたことを大変感謝している。

\*「都市はツリーではない」の原文「A city is not a tree」は下記URLで見ることができます。

<http://www.rudi.net/bookshelf/classics/city/alexander/alexander1.shtml>

<http://www.rudi.net/bookshelf/classics/city/alexander/alexander2.shtml>

## GeNii (ジーニイ:学術コンテンツポータル) からCiNii (サイニイ) 編

### GeNiiとは？

国立情報学研究所 (NII) が提供する学術コンテンツポータルです。

CiNii (サイニイ:NII論文情報ナビゲータ)

Webcat plus (ウェブキャットプラス:目録所在データベース)

KAKEN (科学研究費補助金データベース)

NII-DBR (学術研究データベース・リポジトリ)

4つのコンポーネント(=データベース)から成立っています。

GeNiiで検索することにより、4つのコンポーネントでの検索を一度に行うことができます。(アクセス数制限なし)

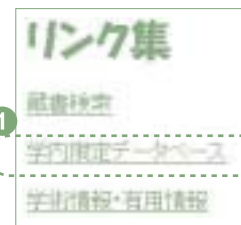
今回はその中から**CiNii (サイニイ)**を紹介します。

### CiNiiの特長

学協会が発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索し、検索された論文の引用文献情報(どのような論文を引用しているか、また、どのような論文から引用されているか)をたどったり、本文を参照したりすることができます。

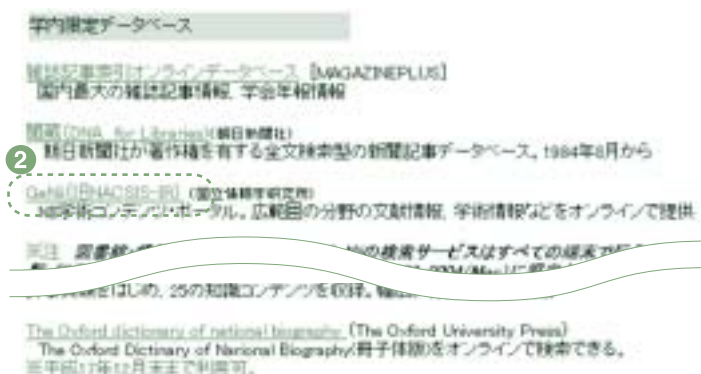
- 1 学内向けHPから“図書館・情報”“リンク集”“学内限定データベース”の順でクリックします。

#### ステップ 1



- 2 “学内限定データベース”からGeNiiをクリックします。

#### ステップ 2



#### (参考) “GeNii”トップ画面

論文情報を詳細に検索するために“CiNii”をクリックします。





## 〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！④

- ③ ここでは例としてキーワードに「静岡△芸術△紀要」と入力して簡易検索で検索します。△はスペースを意味します。あらかじめ“論文名”“著者名”“ISSN”が明確な場合は詳細検索が効果的です。

### ステップ 3

- ④ 詳細検索 ▼印をクリックすると検索対象を“著者名”“雑誌名”など選択できます。また、検索語に“すべてを含む(AND検索)”“どれか含む(OR検索)”を用いて絞り込むこともできます。

### 語句の説明

- ⑤ 本文リンク等…“あり”となっている論文は全文表示ができます。
- ⑥ abstract…論文の抄録を表示します。抄録とは論文の内容を簡潔にまとめたものです。
- ⑦ references…この論文が引用している論文の件数を表示します。“未登録”は0件です。
- ⑧ citings…他の論文がこの論文を引用している場合、件数が表示されます。
- ⑨ 5番目の「産業集積の論理：一産業都市の産業集積を中心に」をクリックします。

※本文表示はNII-ELS（電子図書館サービス）が行うため続けてクリックします。



詳細画面になります

次ページに続く

## 詳細画面

詳細画面では論文を収録している雑誌名、著者名、巻号、ページ数、抄録が表示されます。

この論文は  
収録雑誌／静岡文化芸術大学研究紀要  
論題／産業集積の論理：一産業集積を中心に  
著者名／佐々木崇暉  
巻号／3号(2003年)  
収録ページ／33～42p となっています



本文が出版物同様に表示されます。



紹介した通りCiNiiの最大の特徴は論文検索ができるだけでなく、一部の論文は本文まで閲覧・印刷・保存できることです。

これにより従来はお金と時間を費やして文献複写を依頼しなければならなかったのが、論文によっては瞬時に無料で入手できるようになりました。大変便利なデータベースなので卒論・論文・レポートに活用してください。

※論文検索は学内のすべての端末で可能ですが、本文の表示・印刷は図書館・情報センター内の端末U0001～U0004のみ可能です。

(2006年3月末まで限定運用。その後は学内すべての場所から利用可能となります。)

また、本文入手できない論文については従来通り、カウンターにて文献複写の依頼をして下さい。(実費負担)

## 知っていますか？こんなサービス

### 貸出と延長について

#### 貸出冊数と期間

利用者区分	貸出冊数	貸出期間
学 生	10冊以内	2週間以内
大学院生	20冊以内	4週間以内

#### 〈注意〉

自分のカードを他人に貸したり、他人のカードを借りたりすることは禁じられています。

利用に関する連絡はデータ上の利用者に基づいて行いますので、ルールを守って図書館・情報センターを気持ちよく利用しましょう!

#### 貸出期間の延長について

借りている資料は1度だけ延長することができますが、下記に該当する資料は延長できません。この場合は至急カウンターで返却してください。

- 他の利用者の予約がついている場合
- 貸出期限が過ぎた場合
- 他に借りている資料の期限が過ぎた場合

本の詳細な情報がわからない時はカウンターに相談してください。